

昭和53年度
(1978)
第18回大会

男子優勝 札幌藻岩 女子優勝 札幌藻岩

【 専門委員長 寸評 】

団体戦は男女共札幌藻岩と札幌清田の対決となったが、全道大会初出場の清田に対し、全国大会出場経験を持つ藻岩が1日の長あり、2年連続男女制覇をなし遂げた。藻岩の選手層の厚さに較べ、清田に切り札を欠いたのが難であったが、開校後日の浅いなかでここまで進出した努力を讃えたい。他に男子の函館ラ・サール、女子の旭川北の善戦が目立った。

個人戦は団体同様、藻岩、清田勢の進出が目立った。とくに酒井（清田）の団体戦の時とは打って変わった積極的なプレー、伏田（清田）の萩原（藻岩）に対する2時間を超えての粘りが印象的であった。他に佐々木（旭川北）の気力、また岩井（函館ラ・サール）の堂々としたプレーもよかった。

女子は有力選手2名が開始時間に遅れ、失格となったことが大会の興趣を削ぎ、その代り、佐藤（静修）の足をいかした確実なプレーが実を結んだ形となった。失格した両名は、ともに北海道を代表すべき好選手なだけに、惜しまれるとともにプレーヤーとしての心掛けに一層留意すべきであることをつけ加えておく。

総じて本年度は男子が消極的な戦いに終始し、果敢な攻撃力に欠けている点がきになった。むしろ、女子の方が足を生かした積極的な攻めを心掛けている点に力強さが見られ、今後は男子の強化が課題となろう。

終りに連日のように明け方になって降る雨に悩まされながら大会運営やコート整備に力を尽くしていただいた当番校旭川北高校の諸先生・生徒・関係者の努力に厚くお礼を申し上げる次第である。

【全国大会】

女子団体での札幌藻岩のベスト16入りが近年にない快挙として特筆される。特に、しばしばベスト8に入り、今回も注目されていた島原商業を破っての進出だけにひとしおのことである。なかでも大河原が好調で、優勝候補の山陽女子（岡山）をもと期待されたが、もう一步で及ばなかったのは残念であった。

男子はダブルスで先行したが、萩原、前之浜に元氣なく惜敗。もう一つダイナミックなものがほしい。

個人戦では酒井（札幌清田）が2回戦で優勝した藤田（早実）、女子ダブルスの中島・小西組（札幌藻岩）も同じく決勝進出の小松・牧下組（愛知・市邨学園高蔵）に当たるなどの不運もあったが、全般的にゲームの組み立て方などに今後工夫すべき点が多々見られた。男子の萩原（札幌藻岩）、女子の佐藤（札幌静修）、小西（札幌藻岩）等の2年生に今後を期待したい。

（ 専門委員長 亀山 省吾 ）

優勝のよろこび

男子 札幌藻岩高等学校

2年連続男女団体優勝！まだ創立されて日も浅い我が校庭球部、そして我々部員が去年の初優勝を無にせず、先輩達の築いてくれた土台の上に、また、一つの新しい石段を積み上げることができました。優勝の瞬間には「これで終わった。」というホッとした気持ちでしかなかったものが、日がたつにつれて「勝ってよかった」という気持ちが実感としてわかるようになって来ました。

人生の一部にしか過ぎないこの時間に一つの目標を達成することが、どんなにうれしいか、そしてその後にくる喜びがどんなにうれしいか、互いに協力して生まれる力がどれだけ大きいかをあらためて知ることができたことと、そしてここに集まった仲間、何にも知らなかった僕達に技術ばかりでなく、精神面や学校生活までよくめんどろを見てくれた先生に出会えたことをとても幸運だったと思います。

この優勝は僕達の手だけでは決して成し遂げることはできませんでした。学校の諸先生、庭球関係者の方々、先輩、そして勝つことのむずかしさ、うれしさを教えてくれた顧問の諸先生に、この場を借りて心から感謝したいと思います。

又、後輩たちにも是非この喜びを味わってもらいたいとともに、何年も続けて優勝できることを、心から祈っています。

（ 札幌藻岩高校 前之浜 毅浩 ）

優勝のよろこび

女子 札幌藻岩高等学校

「団体男女2年連続全道優勝」ということは、まだ歴史の浅い我が部にとって、初めてのことでした。去年、先輩達が優勝して喜び合っているのを見て、私達もその喜びをもっとじかに味わいたいと思いました。そして、先輩達が築いて下さった藻岩の土台をより高めるために、また、熱心に教えて下さる先生の期待に応えるためにも頑張りました。大会の当日は、はるばる旭川まで先輩達も応援にかけつけて下さって、いろいろとアドバイスをしてくださいました。やはり、全道大会とあって、地区大会では見られない人達ばかりでしたが、少々緊張しながらも、勝ち進むことができました。

この全道優勝は、選手の努力によるものだけではなく選手になっていなかった部員全体の協力と、先輩達や両親の応援と協力、そして、最後まで私達を導いて下さった先生によるものです。私達の優勝を誰よりも喜んで下さったのは、やはり、顧問の緒方先生です。私達は、先生を通してテニスの技術だけでなく、態度や精神面でも、多くのことを教えていただきました。また、学校のクラスなどでは味わえない団結と協力を得ました。それは部員全員が、先生とともに、全道優勝という一つの目標に向かって、みんなで努力したということにあったと思います。

これからも、目標をもつことを忘れずに、後輩に頑張ってもらいたいと思っています。

(札幌藻岩高校 倉重 順子)

全国高校総体 (第68回全国高等学校庭球選手権大会) 福島

8月2日～8日 福島市庭球場 福島県営庭球場